

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	重症心身障害児支援の強化						掲載ページ		
							181		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		54,281	千円	0	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	重症心身障害児(者)が利用できるショートステイ事業や通園事業の充実を図ります。(通園事業は平成23年度末事業廃止)			活動実績 活動実績は下記のとおりです。
活動計画	重症心身障害児(者)を対象とする事業の充実に向けて、ショートステイの受入拡大や事業所の創設に向けた働きかけを実施します。				
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	ショートステイ(医療型)年間延べ利用者数	2,906 人		2,915 人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	ショートステイは、家族、介護者が必要とする時に支援するサービスであり、「延べ利用者数」は支援の度合いを図る一つの目安となると考え、掲げました。 (最終目標と最終年度)				
					順調
(最終目標と最終年度)				やや遅れ	
				遅れ	順調

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	重症心身障害児(者)が利用できるショートステイ事業の延べ利用者数は、2,915人(前年度2,906人)で順調に推移しています。重症心身障害児(者)への支援及び介護者の負担軽減等を図るため、今後も必要なサービスと考えています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	ショートステイや児童デイサービスは法定給付であり、重心通園事業は国庫補助要綱に基づき補助金を交付しており、本市が独自に決定できるものではありません。(平成23年度末に重心通園事業は法定化に伴ない事業廃止)

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
ショートステイは必要なサービスであり、充実のための取り組みの継続が必要と考えます。(重心通園事業は平成23年度末事業廃止)重症心身障害児(者)を対象とする事業の充実に向け、ショートステイの受入拡大や事業所の創設に向けた働きかけを実施します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	総合療育センターの機能の強化						掲載ページ		
							181		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		2,769	千円	3,099	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	医師をはじめ臨床心理士などの専門スタッフの充実等を図るとともに、「総合療育センター」の地域支援室による地域の保育所、幼稚園や通園施設等への支援の強化や市西部地区の障害のある子どもの支援について検討します。（総合療育センターは指定管理者が運営）		活動実績	活動実績は下記のとおりです。		
活動計画	医師確保に向けて大学医局への働きかけ等、必要な支援を行うとともに、機能強化に向けた取組みを継続します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】	
	施設一般指導事業実施件数		177 件		151 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児（者）の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）						
						順調	順調
（最終目標と最終年度）					やや遅れ 遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	医師確保に向けて、大学医局への働きかけ等必要な支援を行っています。また、指導事業の利用者についても順調に増加しています。総合療育センターは、本市の障害児療育・支援の中核施設であり、また、総合療育センターなどの専門スタッフによる保育所等職員の育成は、より多くの相談者の福祉向上、問題解決を効果的に実施することができることから市民の総合療育センターの機能充実に対する期待は大きいと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	指導を実施しているのは障害福祉に関して知識・経験を十分に有する職員であり、他の職員では同じ成果を得ることができません。また、総合療育センターは、指定管理者制度を導入し、経済的・効率的な運営を行っています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
総合療育センターは、本市の障害児療育・支援の中核施設であり、機能強化に向けた取組みは今後も必要と考えます。また、指導事業においても、保育所等の職員の資質向上に有効であるため、今後とも継続的に実施します。さらに、総合療育センター再整備に向けた検討を行います。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	小池学園(児童部)居住環境改善事業						掲載ページ		
							181		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		998	千円	13,782	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	重度の障害のある子どもへの支援の強化ため、現在の小池学園児童部の居住環境を改善します。(「指定管理者」が運営)				活動実績	小池学園(児童部)の居住環境の改善について検討	
活動計画	法制度・法令等の情報収集・分析 基本構想の検討							
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】		
	改善方法の検討		10 (%)		20 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	居住環境改善のためには、その手法を検討する必要があるため、改善方法の検討の進捗率を活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)						順調	
(最終目標と最終年度)				やや遅れ		遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	小池学園(児童部)の居住環境の改善に向けた方法を検討するとともに、併せて西部地区の療育体制等について検討しました。 小池学園(児童部)の居住環境を改善することは、障害のある子どもへの支援で有効性の高いものだと考えています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	建設にあたっては、あらゆる制度の活用を検討することで市のコストの負担軽減を図りたいと考えています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
今後の居住改善の手法については、関係機関と協議を進めていくとともに、測量等基礎調査を行います。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	ショートステイ事業						掲載ページ		
							181		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		197,556	千円	235,300	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	介護者の病気や冠婚葬祭などにより、一時的に介護等支援が受けられなくなった在宅の障害児（者）を、短期間、施設で預かり（宿泊型・日帰り型）必要な介護等を行います。今後、その充実を図り、重度の障害のある子どもの受け入れを含め、支援を強化します。			活動実績 活動実績は下記のとおりです。
活動計画	短期入所事業については、法定給付のため、その内容については国の制度改革等の動向を見ながら実施を継続します。				
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】
	短期入所の月延利用人数	64 人/月	58 人/月	74 人/月	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	短期入所は、保護者の身体的・精神的負担の軽減を図るためのレスパイト（一時的休息）としても必要であり、利用状況を把握していくことが重要と考えています。 （最終目標と最終年度）平成26年度 318人/月			127.6 %	
	日中一時支援事業（日帰りショート）の利用者数	172 人/月	173 人/月	176 人/月	順調 やや遅れ 遅れ
当該事業における利用者数の増加は、障害者（児）の日中における活動の場の確保及び介護負担の軽減につながります。 （最終目標と最終年度）平成26年度 182人/月	101.7 %			順調	

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	利用実績は当初予定を上回る見込みとなっておりますが、重度の障害者（児）の受入を行う事業所が少ない状況は続いています。 （利用実績） （短期入所）H23.3～H24.1平均で1,510人/月 （日帰りショート）H23.3～H24.1平均で 175人/月 保護者の身体的、精神的負担の軽減を図るために不可欠な支援であると考えており、着実に利用者数等が伸びていることから、保護者のレスパイトや就労支援に対する有効性は高いと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	短期入所については、障害者自立支援法に基づく法定給付であり、自治体が独自でその内容を決定できるものではありません。日帰りショートについても同法に基づく地域生活支援事業であり、適切な支援が行なえるよう、障害児（者）に対しての支援のノウハウを有する事業者者に委託をしています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
保護者のレスパイトや就労支援の充実に必要な支援であり、今後も事業を継続します。また、重度障害児（者）のニーズに対応していくため、既存事業所の受け入れ枠の拡大や新規事業者の参入への助言などを行っていきます。 短期入所事業については、法定給付のため、その内容については国の制度改革等の動向を見ながら実施を継続します。 また、重度障害児が利用できる短期入所事業所、日帰りショート事業所の充実を図るため、既存事業所の受け入れ枠の拡大や、新規指定の参入への助言などを引き続き行なっていきます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	北九州市障害者地域生活支援センターの運営						掲載ページ
							181
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		96,124 千円	116,120 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	障害者相談支援事業を実施する「北九州市障害者地域生活支援センター」（ウェルとばに設置）の運営を北九州市障害者相談支援事業協会に委託して、障害者及びその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や権利擁護のための必要な援助を行うことにより、障害者等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようになります。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。
活動計画	本事業は、障害児（者）が日常生活を安心して送り、地域で暮らしていくために必要不可欠の事業です。また、相談内容が専門化・複雑化する傾向にあるため、今後は、より効率的な相談支援体制の構築を検討する必要があります。				
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】
	障害者地域生活支援センターの相談件数	12,188 件		15,294 件	大変順調
	障害児（者）が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようにするため、障害者地域生活支援センターが障害児（者）やその家族等からの相談に応じ、必要な支援を行います。 （最終目標と最終年度）平成29年度 43,669件				
	障害者地域生活支援センターの設置数	1 箇所		1 箇所	順調 やや遅れ 遅れ
障害児（者）が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようにするため、障害者地域生活支援センターが各区役所窓口との連携を強化し、身体・知的・精神の各障害に対応した適切な相談体制を整備する必要があります。 （最終目標と最終年度）					

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 HPやチラシ、福祉ガイドへの掲載などにより、継続的に障害者地域生活支援センターの広報を行なうことで、知名度を上げることができ、相談件数も前年度より増加させることができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 障害児（者）及びその家族に対する相談支援は、基本的には職員が直接行うものですが、業務の簡素化をはかるため、専門家のいる障害者相談支援事業協会に委託し、迅速な問題解決を図っています。しかし、障害者等からの相談内容が専門化・複雑化する傾向にあるため、今後は、より効率的な相談支援体制の構築を検討する必要があります。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
北九州市障害者地域生活支援センターを機能強化し、基幹相談支援センターとして再整備を行い、相談窓口の一元化を図ることで、相談者の利便性を向上させます。 併せて、出前相談など丁寧な相談支援方法をとることにより、障害のある人が自立した日常生活や社会生活を営むことができますようにします。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	ホームヘルプサービス事業						掲載ページ		
							181		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		1,278,613	千円	1,347,604	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害者自立支援法に基づく「障害福祉サービス」の一つで、ホームヘルパーの派遣を希望する在宅の障害児(者)に対し、支給時間数(利用できる時間数)を決定し、これに基づき、障害児(者)は事業者から身体介護や家事援助等のサービス提供を受けます。そのサービスに要した費用を市が負担します。				活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	法的給付のため、法制度の仕組み等により給付等事業を行います。なお、国において制度改革等の動きがあることから、国の動向を見ながら事業を継続します。							
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)		【活動の状況】	
	訪問系サービスの月利用時間数		30,185 時間	50,116 時間	35,337 時間	70.5 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	訪問系サービス(居宅介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護)の月延利用時間数の実績です。居宅介護事業等は、障害者が地域等で安定的な生活を営むために必要なサービスであることから、利用状況を把握していくことが重要と考えています。 (最終目標と最終年度)平成26年度 41,051時間/月							
	(最終目標と最終年度)							

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	全体的に利用者数、利用者時間数ともに増加しており、平成23年10月から新しく同行援護が始まったことでさらに増加しています。障害児(者)への必要なサービス提供は概ね順調に提供されています。今後もサービス提供体制の充実や良質なサービス提供の実現のため、事業者への助言や指導等に努めるとともに、利用者へ適切なサービス利用の決定を行っていきます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	法定給付であり、自治体が独自でその内容を決定できるものではありません。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
<p>障害児(者)が住み慣れた自宅等地域で生活をしていく上で不可欠な支援であるため、今後も継続して事業を行います。法定給付のため、その内容については国の制度改革等の動向を見ながら実施を継続します。また、今後も利用者が必要とするサービスが適切に受けられるよう、適切なサービス利用の決定やサービス提供事業者への助言・指導を行います。</p>

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	日常生活用具給付等事業						掲載ページ		
							182		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		255,628	千円	259,585	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	自力で日常生活を営むことに著しく支障のある在宅重度障害児者に対し、スタマ用装具等の日常生活用具を給付又は貸与することで日常生活の便宜を図ります。			活動実績 活動実績は下記のとおりです。
活動計画	予算の範囲内でより多くの方に本事業を利用していただくため、PR活動など積極的な取り組みを行い、障害者のニーズに即した事業内容となるよう努めます。また、障害者のニーズに基づき、より要望や必要性の高い福祉用具の追加を検討します。				
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】
	日常生活用具の年間支給件数	10,891 件/年	12,423 件/年	11,309 件/年	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	「支給件数」が、障害者の日常（在宅）生活における利便性の向上を図る判断基準となるため、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）平成26年度 11,790件/年			91.0 %	
					順調
（最終目標と最終年度）				やや遅れ 遅れ	

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	「経済性」「効率性」の分析	平成22年4月から市民税非課税世帯の自己負担を0円にすることで、申請者の経済的負担を軽減しました。この影響も含め、支給決定件数(事業利用者数)は順調に増加しています。定価で購入すると割高な福祉用具を原則1割自己負担で購入できるので、家計や介護者の負担を軽減できています。
		「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。
		給付にあたっては、真に必要な分だけを給付するという日常生活用具の基本原則を遵守した運営を行っています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
今後とも、予算の範囲内でより多くの方に本事業を利用していただくため、PR活動など積極的な取り組みを行い、障害者のニーズに即した事業内容となるよう努めます。 障害者のニーズに基づき、より要望や必要性の高い福祉用具を新たに種目に追加します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	補装具費の支給						掲載ページ		
							182		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		288,745	千円	263,681	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	身体障害者の日常生活や社会生活の向上を図るために、失われた身体機能や損傷のある身体機能を補うための用具(補装具)の交付及び修理を行います。			活動実績 活動実績は下記のとおりです。
活動計画	予算の範囲内でより多くの方に本事業を利用していただくため、PR活動など積極的な取り組みを行い、障害者のニーズに即した事業内容となるよう努めます。また、障害者のニーズを把握し、補装具の適正支給に努めます。				
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	補装具の年間支給件数	3,357 件		3,379 件	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 大変順調
	「支給件数」が、障害者の日常(在宅)生活における利便性の向上を図る判断基準となるため、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)				
					順調
(最終目標と最終年度)				やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成22年4月から市民税非課税世帯の自己負担を0円にすることで、申請者の経済的負担を軽減しました。この影響も含め、支給決定件数(事業利用者数)は順調に増加しています。福祉用具を原則1割自己負担で購入できるので、家計や介護者の負担を軽減できています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	補装具は身体障害者の身体状況に適したものを支給しており、障害者自立支援法において各部品ごとの費用が設定されています。したがって、市町村独自の判断でコストを変更することはできません。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
今後とも、予算の範囲内でより多くの方に本事業を利用していただくため、PR活動など積極的な取り組みを行い、障害者のニーズに即した事業内容となるよう努めます。 障害者のニーズを把握し、補装具の適正支給に努めます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	移動支援事業						掲載ページ		
							182		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		268,677	千円	257,890	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	移動支援事業は、屋外での移動に困難のある重度障害者（児）が、公的機関などの外出及び余暇活動等の社会参加のための外出をする時に、ヘルパーを派遣して移動の支援を行う事業です。平成19年度に利用要件を緩和した結果、利用が大幅に増加しており、今後も利用者数の拡大が見込まれます。 平成23年10月より、重度の視覚障害者（児）については、障害福祉サービスの同行援護を利用することとなりました。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。		
活動計画	移動支援事業は障害福祉サービス（居宅介護）事業者へ委託して実施しています。事業者の新規参入を促すとともに、市民に対し本事業の啓発に努め、事業の充実を図ります。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】		
	障害者の移動支援の年間延べ利用時間	87,236 時間	60,004 時間	94,322 時間	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	移動支援事業の利用者のニーズに応えるため、平成19年度に利用要件を緩和しました。これに伴い要件緩和以降、大幅に利用者数、利用時間が増加しました。今後も障害者が利用しやすいサービスの提供を行っていきます。 （最終目標と最終年度）平成26年度 111,324時間			157.2 %			
					順調	大変順調	
（最終目標と最終年度）				やや遅れ 遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	移動支援事業は、障害者自立支援法において、地域生活支援事業に位置づけられ、市町村の裁量でサービス内容等を決定する事ができます。このため、本市では障害者が利用しやすいように平成19年度に利用要件を緩和しました。この結果、当初計画に対し、計画を上回るペースで利用者数が増加しています。今後とも、利用者のニーズに応え事業充実を図ります。 なお、平成23年10月より、重度の視覚障害者（児）については、障害福祉サービスの同行援護を利用することになったため、利用者数の伸びは鈍化しました。 移動支援事業は、障害者の社会参加の為の外出を支援する制度です。平成19年度に利用要件を緩和したことで、障害者の利用時間が大幅に増加しました。施策の目標に対する有効性は高いと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	移動支援事業は、障害福祉サービス事業所に事業を委託して行っています。また、報酬単価についても、障害福祉サービスの単価に準じて決定しているため、単価を安くすることはできません。これらの理由により、より低いコストでより高い効果を得ることはできないと考えます。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
平成19年度に利用要件を拡大し、利用者数、利用時間も大幅に増加しているため、本事業は施策に対する有効性も高く、障害者の社会参加の促進を図っていく上で重要な事業であると考えています。今後も目的達成に向けて着実な取り組みを進めていくことが適当だと考えます。今後も利用者のニーズに応え、事業充実を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	障害児福祉手当						掲載ページ		
							182		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		100,156	千円	103,942	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	日常生活において、常時、特別な介護を必要とする20歳未満の在宅の重度の障害のある子どもに対し、その障害によって生じる特別な負担の軽減を図ることを目的として手当を支給します。			活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	全国一律に支給基準が定められています。適正な事務の執行を行います。						
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の考え方)		前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】	
	支給者数		586 名		582 名	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	日常生活において、常時、特別な介護を必要とする在宅の20歳未満の子どもに対し、その障害によって生じる特別な負担の軽減を図ることを目的として手当を支給します。 (最終目標と最終年度)						
						順調	順調
(最終目標と最終年度)					やや遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	特別児童扶養手当等の支給に関する法律・施行令に基づき支給しています。障害のある子どものいる世帯の負担軽減に寄与しています。
	「経済性」「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	法定給付であるため、支給要件、手当額等は全国一律に定められています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
<p>本事業は、障害のある子どものいる世帯の負担軽減に寄与する法定給付であるため、法律に基づき継続して実施します。</p>

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	特別児童扶養手当						掲載ページ		
							182		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		272	千円	373	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	身体障害・知的障害・精神障害の状態（重度・中度）にある20歳未満の障害のある児童を扶養している父母等に手当を支給します。			活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	全国一律に支給基準が定められています。適正な事務の執行を行います。						
活動指標	指標 （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】	
	支給者数		1,311 名		1,324 名	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	身体障害・知的障害・精神障害の状態（重度・中度）にある20歳未満の児童を扶養している父母等に手当を支給します。 （最終目標と最終年度）						
						順調	順調
（最終目標と最終年度）					やや遅れ 遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	特別児童扶養手当等の支給に関する法律・施行令に基づき支給しています。障害のある子どものいる世帯の負担軽減に寄与しています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	法定給付であるため、支給要件、手当額等は全国一律に定められています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
<p>本事業は、障害のある子どものいる世帯の負担軽減に寄与する法定給付であるため、法律に基づき継続して実施します。</p>

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	重度障害者医療費支給制度						掲載ページ		
							182		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		3,819,950	千円	3,875,662	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	重度の障害のある子どもの健康の保持及び福祉の増進を図るため、保険診療による医療費の自己負担額を助成します。			活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	現行制度を継続して実施します。						
活動指標	指標 （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】	
	重度障害者医療の受給者数		23,054 人		23,191 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	重度障害者医療の受給者数が増えることにより、重度の障害のある子どもを育てる家庭で、経済面における子育ての悩みや不安を感じる人の割合は減少すると予想されるため、指標として設定しました。 （最終目標と最終年度）						
						順調	順調
（最終目標と最終年度）					やや遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	受給者数はほぼ目標通りであり、経済面における子育ての悩みや不安を感じる人の割合の減少につながったと考えられ、施策に対する効果は高いと考えます。
	「経済性」「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	保険診療による自己負担額を助成するものであり、代替手段によるコスト削減または市以外の団体による関与は考えられません。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
重度の障害のある子どもの健康の保持と健やかな育成を図るため、現行制度を継続して実施します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	重度障害者タクシー乗車運賃助成事業						掲載ページ		
							182		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		83,116	千円	85,690	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	在宅の重度障害児(者)の社会参加の促進を図るため、タクシーの乗車運賃の一部を助成し、重度障害児(者)の外出を支援します。			活動実績 活動実績は下記のとおりです。
活動計画	今後も制度的確かな広報を行うとともに、必要が生じた人に適切に対応していきます。市政だよりやホームページへの掲載により助成制度の周知に努めます。				
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】
	重度障害者タクシー乗車運賃助成者数	4,588 人		4,709 人	大変順調
	「助成者数」の増加が、利用者の活動・外出を支える満足度の高いサービスであることの判断基準となるため、成果指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）				
（最終目標と最終年度）				遅れ	順調

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	概ね当初計画どおりの利用者となり、在宅の重度障害児(者)の活動・外出を支える人気の高いサービスとなっています。当事業は、公共交通機関の利用が困難な重度障害児(者)の安全で容易な社会参加の移動を確保するものであり、施策の目標を実現する有効性が高いです。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	当事業の目的を理解し、月4枚の利用を順守していただけるよう、配付時の周知に努めるとともに、利用券本体に利用月を印刷し、適正利用の周知徹底を図っています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
今後も制度的確かな広報を行うとともに、必要が生じた人に適切に対応していきます。市政だよりやホームページへの掲載により助成制度の周知に努めます。